

「蕨島小学校の新地節伝承活動の取組」

1 学校名

出水市立蕨島小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計17人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年7月～令和4年1月

令和4年1月21日(金) リハーサル（出水市マルマエ音楽ホール）

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月26日(日) 蕨島小学校運動会

令和4年1月22日(土) 「出水ツルの越冬地」ラムサール条約湿地登録記念式典

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

(1) 名称

新地節（しんちぶし）

(2) 由来

新地節は、古くから海岸近くの村々で踊り継がれて来たと伝えられている。蕨島はかつて島だったが、昭和29年の出水西干拓工事により陸続きとなった。この工事の竣工を祝って、当時の村人たちによって踊られたのが蕨島新地節の始まりと言われている。その後、機会ある毎に婦人会によって踊られてきたが、30年ほど前から学校教育の一環として蕨島小学校の子供たちに受け継がれ、毎年運動会などで披露している。

(3) 構成等

男女2人1組で踊る。男子は、踊り用の軽い鍬を使う。法被を着て、頭には、手ぬぐいの鉢巻、素足に草履履きで踊る。女子は、鉤紐のついた天秤棒に砂利を入れる籠をかけた道具を使う。手ぬぐいを姉さんかぶりにし、着物を着て、色物の襷をかけ、赤い腰巻き、手甲脚半に短い前掛け、素足に草履履きで踊る。16～17年前までは、歌い手や三味線、太鼓の演奏で踊っていた。

5 保存会や地域との連携の具体

「新地節保存会」を発足し、30年ほど前から、地域住民が蕨島小学校の児童に新地節の指導を行っている。現在、蕨島の郷土芸能として、根付いている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら新地節を継承していくために、30年ほど前から、毎年蕨島小の運動会で披露している。今年は、蕨島小学校と隣接する干拓地がラムサール条

約湿地として登録されたことを受け、ラムサール湿地条約記念式典のオープニングで新地節を披露した。

7 取組の様子



【運動会での発表】



【ラムサール条約記念式典での発表】

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【下学年児童】

みんなの前で発表して、ドキドキしたけど、うれしかった。これからも新地節の練習をがんばりたい。

【上学年児童】

新地節を地域の方々や保護者に披露することができて、うれしかった。受け継がれているこの新地節を来年もがんばりたい。

新地節を披露することを通して、自分自身も地域の一員だと感じることもできた。これからも地域のためにがんばりたい。

【教職員】

保存会の方々には、毎年7月から新地節の練習の指導をしていただき、ありがたい。児童も保存会の方々の指導を受け、熱心に練習に取り組んでいる。保護者の理解もあり、協力的である。毎年、運動会でこの新地節を披露することで、児童や保護者、教職員、地域住民との一体感が生まれている。これからもふるさとの郷土芸能である新地節を通して、地域への誇りや愛着を育てることができるよう、学校・保護者・地域で協力して取り組んでいきたい。

【保存会から】

長年、学校と協力して運動会で新地節の披露を行っている。そのことが、新地節の保存につながっている。今年は、ラムサール条約湿地記念式典のオープニングで新地節を披露することができ、蕨島の新地節を多くの人に周知してもらった。これからは新地節の保存に努めたい。

【地域の方から】

蕨島小の運動会で行われる新地節を見ることを毎年、楽しみにしている。コロナ禍の運動会でも新地節があり、嬉しかった。来年も見たい。